

# 平成 28 年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園せいめいのもり

## 1. 本園の教育目標

<p>★ 子どもたちへ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① たくましい体と思いやりのある心を持つ</li><li>② 相手を理解し受け止めながら、自分の気持ちを伝えられるようになる</li><li>③ 正しい考えを持ち、心が豊かな人間になる</li><li>④ 気持ちの良いあいさつができるようになる</li></ol> <p>★ 園としての運営目標</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① こども中心・あそび中心の『こどもの城』を目指す～遊びが子どもを育てる。</li><li>② 心温まる愛に包まれた保育を！～保育教諭は子どもの心のサポーター</li><li>③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。</li><li>④ 家庭との連携を怠らず、『共育』の推進を図る。(親の心の声を聞く努力＝信頼関係)</li><li>⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動。</li></ol>
--

## 2. 重点目標

こども中心あそび中心の『こどもの城』として、子どもの育ちの基本である『遊び』に没頭できる環境を重視することにより、集中力、協同性、意欲、創造性、忍耐等の様々な育ちを保障する。
---

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育方針の保護者理解を深める	見学者や在園児の保護者に園長だよりや Q&A、動画等の様々な情報によって、遊びの大切さや保育の質、今後について細かく伝えてきた。
子どもの様子を見取り適切な保育計画を作成する。	今年度から乳児部ができたことで、保育環境設定に苦労もあったが、悩みを生じたが、子どもの特性を徐々に理解していくことで、見通しを持った計画を作成することができてきた。幼児部については、子ども自身で遊びの原点である『自治・模倣・創造』がクラス保育の中においても大切にできる計画をしたことで、子どもの内面の育ちに大きく寄与したと考える。
保育の質の向上のため、保育研究を充実させる。	野育の会の協力を得ながら、北海道セミナーの実施や出張などにより、行事や保育内容の改善を図ることができた。
自然体験による育ちの支援	今年度も冒険クラブの協力で、親も巻き込んだ自然体験活動を実施できたことで、自然環境との共生の大切さを経験できる機会を持てた。

## 4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

幼保連携型認定こども園として1年を経過したが、年度当初は乳児部と幼児部の保育感や文化の違いから隔たりを感じたが、お互いを知る努力を保育会議等で深めていき徐々に解消していった。また、改めて日頃ルーティンで進めてきた保育内容を適宜改善していくことで、行事の持ち方(特に運動会の在り方)も大きな改善が図られることとなった。これからは、乳児部の室内環境、保育の質をより高めていくことに力を入れていく必要も同時に感じている。今後も子どもたちの育ちの保証はもちろん、保護者からも厚い信頼の下で保育ができる環境を全保育協教諭と職員で作り上げていく努力を絶やさないよう心掛ける。
---

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な幼児への対応のため人的環境を整え、効率と効果について考える。また各関係機関との連携を図り、保護者や幼児へ細かい対応を行う。
乳幼児の連携	保育教諭同士の情報共有や保育の連携の進め方について。

## 6. 関連事業

○地域への開放、子育て支援事業の実施 「かんがるーの日」～年9回 「あそぼうDAY」未就園児教室登録者対象～年各1回
○未就園児教室「つぼみ組」火・木それぞれ～年19回ずつ 「さくらんぼ組」～年16回
○幼小の連携～北光・苗穂小学校との交流